

## 『看護覚え書』の序章を掲載！

続き5

## 看護は回復過程を支援すべきである

10. すぐ持ち出されるもう一つのよくある抗議は、「コレラや熱病などのときも、あなたは何かしようとしませんか？」というものである。薬を与える事は何かをしたことであり、いや、むしろそれが全てであり、新鮮な空気や暖かさや清潔を与える事は何もしていないことである、と言う確信がなんと根強く行き渡っていることか。私の答えはこうである。「それらの病気やその他これに類した多くの病気に対しては、特定の医薬や療法が用いられているが、それらの正確な価値は、けっして厳密には確かめられてはいない。しかし一方、病気の成り行きを決定する上において、注意深い看護を極めて中であると言う事は、あまねく経験されている」と。

## 健康人の看護もほとんど理解されていない。

11. 良い看護を構成する真の要素は、健康人のためのもの、病人のためのもの同様に、ほとんど理解されていない。健康の法則、すなわち看護の法則——両者は実のところ同一なのであるが、病人の中にも健康人の中にも共通に働いているのである。この法則が守られなかった時、健康人は病人ほどには極端の影響受けなくてすむというだけである。もっともいつもそうだというわけではない。

12. すると、決まってこう反対される。「でもどうすれば私は、そうした医学的な知識を手に入れることができるだろうか。私は医者ではない。私はこれを医者に任せるほかない」と。

13. 家庭の母親たちよ、そんなこと言うあなた方は、この文明国である英国で、7人に1人の割合で赤ん坊が一歳にならないうちに死んでいるのを知っているのだろうか。ロンドンでは5歳になるまでに5人に2人までが死亡しているし、また英国の他の大都市では、それがほぼ2人に1人だと言うことを知っているだろうか。



看護覚え書より引用

# 看護部Nau

平成28年12月  
第27号発刊  
社会医療法人  
財団董仙会  
恵寿総合病院  
看護部管理室

## 師走に看護師走る！

12月は、師走。何も無くても忙しい歳の瀬を迎えて、適時調査・立ち入り調査が行われました。看護部長は、調査の前日遅い時間まで、資料の整理・準備と伝達に時間をかけ、用意してくれましたが、調査へ参加するかを最後まで悩み研修にいかれました。看護部長の苦渋の選択を察すると、研修中の看護部長に「できるだけ負担はかけたくない！研修に頑張ってもらおう！」看護部の一人ひとりが恵寿だ！その役割は、十二分に発揮され、そして一丸となったのが、燃える集団、我が看護部でした。看護部長不在の中、各部署の管理者の皆様・スタッフの皆様



の協力のもと、2つの大きな調査を無事、難なく通過できたことは、大変誇らしいことです。素晴らしいです！この団結力を大切にいきましょう。今年の適時調査では、看護問題の抽出、看護計画の立案、看護実践へと具体的な展開が弱いことが指摘されました。改善課題が



明確になりました。今後も引き続き、力を合わせ弱点を克服していきましょう。お疲れ様でした。ありがとうございました。

## Wチェックを考える

12/20(火曜日)17:30から、Keiju Innovation Hub で、看護基準・手順委員会と内服管理チームが合同で企画・主催した「アクシデントが語る内服ダブルチェックの落とし穴」をテーマに研修会がありました。各部署から63名が参加しました。この研修は、今後の内服管理をどのようにしていくかにつながる大切な研修会です。今後、内服管理マニュアルを作成していくにあたり、患者に一番多く接している看護師の方々から、案を出していただき、ボトムアップ方式で、「シンプルで確実」な方法を3月までに考案したく活動をすすめていきます。今回の研修は、Wチェックの有効性を確認できたことから、参加した看護師の行動変容につながることを期待しております。



## 看護秘書課実技研修に励む！

障害のある高齢者におむつをきちんとあてるのは、大変難しい事です。特に、股間部位にすき間を作らないようにあてること、腰骨の上まできちんと上げることには苦勞します。しかし、紙おむつの機能はあて方によって大きく左右されます。今回、6階東病棟の堀広子さん、坂口初枝さん、5階東病棟郷社まり子さんの3人の看護秘書が、「適切なおむつの使い方とスキンケア(褥瘡予防)と紙おむつ」について研修を受けてきました。「オムツの使い方を理解し、ADL・体型・排泄状況に応じたアイテム・使用方法の選定やおむつの機能を活かした使用、アイテム・使用方法のスタッフ間での共有と3つのポイントを意識し、応用した当て方を考え、快適な装着感での使用は、漏れへの改善につながり、褥瘡を予防することへとつながります。」と学んできたことを他の看護秘書へ伝達講習を行いました。Keiju Innovation Hub の人形を使用して、実際に実施しました。紙おむつの機能を十分に活かし、効果的に使うよう心がけましょう。



# 今月の担当は3病棟2階です！



何を選ぶ？安全・安心？自分らしさ？アメニティ？

「お産は病気ではない」はもう神話。環境・食生活・産む年齢の上昇により、妊娠を機に体調を崩すこともあります。何より日本においても、妊産婦死亡はゼロではないのですから・・・

超自然に自分の力を信じてお産する【院内助産】、痛いのは我慢しない【無痛分娩】、どんな時でも情報を共有し、異常の予測・判断・緊急対応出来る様スタッフ全員協力・努力しています。

また、人生においてほとんどの方が、1～2度しかない機会にお姫様のように扱われたい気持ちを持つもの。「新しい家族を皆で迎えたい」という気持ちを大切に、LDR・病室を快適な空間にしています。

もらってうれしい退院プレゼント☆

一新しました！！

- ・写真立て ・バスタオル ・体温計
- ・鼻吸い器 ・命名ファイル

ママたちには退院後すぐ使えて好評です！



ちっちゃな ちっちゃな そのこぶしに、  
夢を一杯 握りしめ  
あなたは この世に 生をうけました  
ご両親の 温かい愛情に はぐくまれ  
健やかに 成長されますよう  
心から お祈り申し上げます



この素敵な詩を添えて  
お渡ししています。

かわいいベビー服もリニューアル♡  
ふんわりやさしい肌触りで選びました！



## 胎児心拍モニタリング(CTG)システム

陣痛と赤ちゃんの状態を評価する検査です。外来・病棟・医師全員がお母さんと赤ちゃんの安全を見守っています。

ナースセンターにて大画面で波形が見れるようになりました！  
医師のタブレットにも連動しています！

〇〇の合併症あり！  
分娩時△△注意です！etc

## 定期的な症例検討会を行っています！！

毎月1回ブリーフィング開催(第1水曜日)

医師を交えて、助産師主体とした妊産婦情報の連絡会を行っています。

毎月1回デブリーフィング開催(第3水曜日)

医師主体とした産科救急症例やハイリスク症例についての振り返りを行っています。

\*産科医療チーム内のコミュニケーションを円滑にし、ハイリスク妊娠に対する危機意識の共有や急変に備えるチーム体制作りに役立っています。

なぜ、あの時あしたのかな？  
今後、どうすればいいのかな？



## 産科大出血(PPH)や新生児蘇生法(NCPR)の訓練を定期的に関催

全スタッフが受講し、いつでも対応出来る様に努めています。  
いち、に、さん、バッグ… いち、に、さん、バッグ…

## ALSO学会in岡山9月10日 発表してきました！

<発表内容>

「当院における第二期遷延に対するデブリーフィングを取り入れた前後の比較」について発表しました。

<発表者 助産師 田畑、三浦>

※ALSO：周産期救急の教育コース

## 3病棟2階も8月22日～PNS導入しました(〇)

助産師・看護師がパートナーシップを揮揮し、妊産婦、新生児のケアの質の向上に頑張っています☆



みなさんの安心・安全・満足が私たちの願いです♡